

目次

	目次	1
理工学部	機械工学科	三林 雅彦 材料強度学研究室 4
		十朱 寧 環境エネルギー変換システム研究室 5
		感本 広文 機械力学研究室 6
		後藤 昭弘 先端加工研究室 7
		野崎 孝志 ヴィークル工学研究室 8
		吉見 直人 材料表面工学研究室 9
		飛田 和輝 知能メカトロニクス研究室 10
		牧野 育代 流体科学研究室 11
		黒瀬 隆 構造力学研究室 12
		佐藤 彰 エア・モビリティ研究室 13
		野内 忠則 次世代エンジン研究室 14
		鹿内 佳人 ロボット工学研究室 15
		鈴木 弘人 無人機航空システム工学研究室 16
	電気電子工学科	美馬 一博 生活支援スマートシステム研究室 18
		小澤 哲夫 化合物半導体研究室 19
		土肥 稔 蓄電装置研究室 20
		石田 隆弘 高電圧工学研究室 21
		村上 裕二 センサ工学研究室 22
		服部 知美 システムコントロール研究室 23
		本井 幸介 生体情報計測研究室 24
		本良 瑞樹 ワイヤレス情報通信研究室 25
		中田 篤史 電力変換装置研究室 26
		武岡 成人 音響研究室 27
		青山 真大 電動機器システム研究室 28
		Mars Kamel イメージング集積回路・システム研究室 29
	物質生命科学科	齋藤 明広 応用微生物学研究室 31
		桐原 正之 有機化学・医薬品化学研究室 32
		笠谷 祐史 X線構造物性研究室 33
		山崎 誠志 界面物理化学研究室 34
		宮地 竜郎 食品安全学研究室 35
		南齋 勉 非平衡界面化学研究室 36
		吉川 尚子 食品機能化学研究室 37
		小土橋 陽平 機能性高分子研究室 38
		高部 稚子 ストレス反応制御研究室 39
		鎌田 昂 天然物化学研究室 40
		佃 諭志 ナノ材料研究室 41
		脇川 祐介 分子物理化学研究室 42
	建築学科	崔 琥 防災構造工学研究室 44
		脇坂 圭一 建築計画・デザイン研究室 45
		渡辺 英義 耐震構造研究室 46
		長尾 亜子 建築意匠研究室 47
		石川 春乃 建築環境(温熱)研究室 48
		田井 幹夫 設計・意匠(デザイン)研究室 49
		鍋島 佑基 建築環境(設備)研究室 50
		林 英昭 建築史研究室 51
		E RIDENGAOQIER 建築材料・生産研究室 52

理工学部	土木工学科	中澤 博志	地盤防災工学研究室	54
		松本 健作	水理研究室	55
		西田 孝弘	社会インフラ材料科学研究室	56
		富永 知徳	構造デザイン研究室	57
		Mahapatra Kedarnath		
			地球環境・リモートセンシング研究室	58
		松本 美紀	建設・防災マネジメント研究室	59
		居波 智也	海岸工学・再生可能エネルギー研究室	60
		鈴木 一史	モビリティデザイン研究室	61
		芦澤 恵太	応用・計算調和解析研究室	63
情報学部	コンピュータシステム学科	國持 良行	計算機科学研究室	64
		足立 智子	応用数理・暗号理論研究室	65
		渡邊 志	感性情報処理研究室	66
		富樫 敦	データサイエンス・人工知能研究室	67
		大石 和臣	情報・物理セキュリティ研究室	68
		高野 敏明	適応システム研究室	69
		山岸 祐己	サービス情報学研究室	70
		四宮 友貴	画像認識アルゴリズム研究室	71
		河野 郁也	並列アクセラレーション研究室	72
		范 自然	応用デザイン研究室	73
	情報デザイン学科	田村 和広	ゲーム・強化学習研究室	74
		小栗 勝也	マスコミ研究室	76
		富田 寿人	スポーツ科学研究室	77
		大相 弘順	遺伝情報／人工生命研究室	78
		友次 克子	言語学研究室	79
		林 章浩	マネジメント・メソッド研究室	80
		谷口 ジョイ	社会言語学研究室	81
		本多 明生	心理学研究室	82
		兼子 一	社会学・社会調査研究室	83
		松田 崇	コミュニケーションデザイン研究室	84
		伊藤 明倫	先端アート研究室	85
		渡邊 言也	感情神経科学研究室	86
		白田 泰如	会話コミュニケーション研究室	87
		津田 裕之	環境認知科学研究室	88
		Adam Brian Jenkins		90
		高橋 桂子	地球環境インフォマティクス研究室	92
		峯田 克彦	環境ゲノミクス研究室	93
		喜多 隆介	超伝導工学研究室	94
教育開発センター	大学院 理工学研究科 システム工学専攻	産学交流		96
		産学コラボネット		97
		研究会		98
		ふくろい産業イノベーションセンター		100
		藤枝イノベーション・コモンズ		101
		取材対応窓口		102
		ホームページ一覧		103



理工学部
土木工学科



教授
中澤 博志
NAKAZAWA Hiroshi

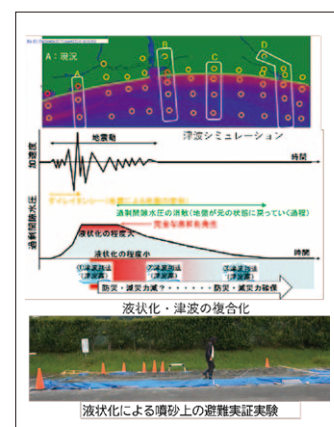
学歴	東京理科大学 理工学部 土木工学科 卒業(1994) 東京理科大学大学院 理工学研究科 土木工学専攻 修士課程 修了(1996)
学位	博士(工学)(東京理科大学)
略歴	基礎地盤コンサルタンツ株式会社 入社(1996) 東京理科大学 理工学部 土木工学科 助手(2000) 独立行政法人港湾空港技術研究所 研究員(2007) 復建調査設計株式会社 主任(2012) 国立研究開発法人防災科学技術研究所 主幹研究員(2015) 同研究所 先端的研究施設活用センター 大型耐震実験施設戦略室 室長(2019) 高知大学 客員教授(2020～) 静岡理工科大学 土木工学科設置準備室 教授(2021) 静岡理工科大学 防災教育センター 副センター長(2021) 静岡理工科大学 理工学部 教授(2022～) 静岡大学 客員教授(2022～) 静岡理工科大学 防災教育センター センター長(2023～)
学会	土木学会／地盤工学会／日本地震工学会／日本建築学会／物理探査学会
専門	土質力学／土質動力学／地盤工学／地盤防災／地盤環境
研究	液状化対策・地盤改良／土構造物の耐震設計／地盤調査手法の高度化／伝統的土木工法(蛇籠・城郭石垣)の安定問題／複合災害(豪雨・地震・津波・液状化など)メカニズム／建設残土の有効利用
URL	https://researchmap.jp/nakazawa-geotech



研究概要

南海トラフ大地震による地盤災害の複合化

私は、地盤の諸問題に関する研究を行っています。ため池の耐震性と決壊後の影響評価、蛇籠構造物・城郭石垣などの耐震性評価、土構造物における豪雨と地震の複合災害、液状化と津波の複合化が避難行動に与える影響に加え、最近では、県内で問題視されている建設残土の有効利用の検討も始めました。現在、注力しているテーマは、本年発生した能登半島地震被害調査を基に、南海トラフ大地震の際に生じ得るリスク評価です。具体的には、沿岸部において、南海トラフ地震によって津波の襲来が懸念されていますが、その前に生じる液状化が避難を困難にするのでは？という懸念から、液状化地盤上の津波避難施設の安定性や津波避難方法についての評価や、道路機能の維持を検討しています。現地調査、要素試験、模型実験および現場実験および数値解析などの手法を満遍なく取り入れ、地域における諸問題の解決に向け、基礎から応用研究への展開を行っています。



連携可能内容

液状化に拘わらず、地盤や土に関する内容全般、防災・減災への展開などに拘わることで連携可能です。近年の静岡県内の不適切盛土や建設発生土の有効利用をはじめ、また、地震災害・豪雨災害調査や防災技術の開発、土構造物や蛇籠・城郭石垣などの伝統的土木技術の耐震化等の提案も歓迎します。いずれも、地盤防災に関する技術を社会実装に結びつけることを常に意識しています。



教授
松本 健作
MATSUMOTO Kensaku

- 学歴 熊本大学 工学部 土木環境工学科 卒業(1993)
熊本大学大学院 工学研究科 修士課程 修了(1995)
熊本大学大学院 自然科学研究科 博士課程 単位取得退学(1998)
- 学位 博士(工学)(熊本大学)
- 略歴 群馬大学 工学部 建設工学科 助手(1998)
群馬大学大学院 工学研究科 社会環境デザイン工学専攻 助教(2007)
群馬大学大学院理工学府 環境創生部門 社会基盤・防災コース 助教(2014)
静岡理工科大学 土木工学科設置準備室 教授(2021)
静岡理工科大学 理工学部 教授(2022～)
- 学会 土木学会
- 専門 河川工学／水防災工学／地下水工学
- 研究 激甚水害対策／河川堤防の安全性診断技術の開発／河川環境保全／流動地下水探査
- URL <https://researchmap.jp/read0161285>



研究概要

静岡県の水害対策を検討し、
安全・安心で自然環境とバランスのとれた豊かなまちづくりを目指す

静岡県の河川を対象として、洪水災害のリスクを調べ、危険性の高いエリアに対しては、独自の観測結果の考察や、コンピュータを用いた数値シミュレーション技術を用いてその対策を練ります。河川工学は「現場工学」ですので、研究室から出て実際の河川に出向き、そこで得られる河川やその周辺の自然環境および人々の生活環境の特徴を捉えて対策に活かすことが重要です。「治水はまちづくりの第1歩」として重要ですが、それだけでなく、水辺空間での豊かな自然環境を創生してくれるのも河川です。そのため本研究室では防災のみでなく、自然環境とのバランスのとれたまちづくりを目指します。

連携可能内容

水害被害軽減策の検討／水害シミュレータの開発／地下水探査技術の開発



教授
西田 孝弘
NISHIDA Takahiro

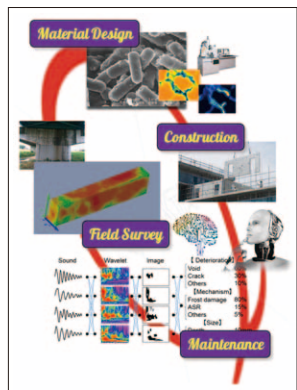
学歴	東京工業大学 工学部 土木工学科 卒業(1999) 東京工業大学大学院 理工学研究科 土木工学専攻 博士前期課程 修了(2001)
学位	博士(工学)(東京工業大学)(2005)
略歴	東京工業大学大学院 理工学研究科 国際開発工学専攻 助手(2002) 電力中央研究所 地球工学研究所バックエンド研究センター 主任研究員(2007) 港湾空港技術研究所 構造研究領域構造研究チーム 特別研究員(2011) 東京工業大学大学院 理工学研究科 材料工学専攻 非常勤講師 兼務(2011) 東京工業大学大学院 理工学研究科 国際開発工学専攻 助教(2012) フィリピンデラサル大学 客員研究員 兼務(2013) 京都大学大学院 工学研究科 社会基盤工学専攻 特定准教授(2015) 海上・港湾・航空技術研究所 港湾空港技術研究所 構造研究領域材料研究グループ 主任研究官(2019) 鹿児島大学大学院 理工学研究科 海洋土木工学専攻 非常勤講師 兼務(2021) 岐阜大学 工学部 社会基盤工学科 非常勤講師 兼務(2022) 静岡理工科大学 理工学部 教授(2022～)
学会	土木学会／セメント・コンクリート研究会／東海構造研究グループ／ISM
専門	社会インフラ材料学／コンクリート工学／鋼材腐食／非破壊検査／信頼性維持管理工学
研究	未利用資源の建設材料への有効利用／自己治癒コンクリートの開発／電気化学的補修の評価／性能評価および対策選定手法の構築
URL	https://researchmap.jp/read0102122



研究概要

SDGsの実現に向けた資源の有効活用および維持管理システムの構築

社会インフラ構造物の整備では多量の材料が必要となります。一方で、SDGsを実現するために、“使わなければならない材料”、“使った方がよい材料”、“使うべき材料”などが存在しています。社会インフラの長期供用に有効な産業副産物や微生物など、様々な背景から排出された未利用資源を有効に活用していくために、材料の基礎特性の把握、試験方法の開発、施工方法の確立、に関する検討を進めています。また、社会の持続的発展を可能とするには、すでに作られた構造物を大切に使い続けることが重要です。そのためには、目の前の社会インフラ構造物がどのような状態にあるのか、十分な性能を有しているのか、を把握する必要があります。この際に必要となる非破壊検査、性能評価、対策などの要素技術やこれらを判断・選定するための維持管理システムを構築します。



連携可能内容

- 大量に排出される廃棄物の有効利用および新しい機能を持つ社会インフラ材料の開発(納豆菌・お茶など)
- 建設分野の施工・維持管理における生産性向上(IoT化)
- 構造物の健康診断技術の開発(調査方法の開発)
- 調査結果を活用した構造物の性能評価および対策選定手法の構築(調査・補修・補強設計)



教授
富永 知徳

TOMINAGA Tomonori

学歴	京都大学 工学部 土木工学科 卒業(1990) 京都大学大学院 工学研究科 土木工学専攻 修了(1992) 東京工業大学大学院 理工学研究科 土木工学専攻 修了(2004)
学位	博士(工学)(東京工業大学)
略歴	新日本製鐵株式会社(現:日本製鉄) 入社(1992) 財団法人国土技術研究センター 出向(2008~2010) 静岡理工科大学 理工学部 教授(2023~)
学会	土木学会/鉄鋼協会/日本鋼構造協会
専門	構造工学/鋼構造/複合構造/維持管理
研究	構造物の損傷状態評価に関する研究/長寿命構造物に関する研究/構造物のモニタリングによる安全確保に関する研究/構造物の補修補強に関する研究
URL	https://researchmap.jp/tomy0415



研究概要

橋梁用簡易モニタリングシステムの開発

近年、各種のモニタリング手法が開発されているが、必要コストの割に得られる情報が少なく、また、長期で使用するには耐久性の課題もあるため、全く普及していない。また、従来のモニタリング手法では振動や発生応力に着目したものがほとんどであるが、実は前者は橋梁管理上ほとんど役に立たず、後者は損傷部の継続監視にしか活用ができない。そこで、管理者が最も活用可能な変位を安価に計測する方法を検討している。具体的には、監視カメラの技術を活用して、複数の変位計を一度に観察できるシステムである。さらに、変位計も精度よりも頑健さと低コストを志向し、システム全体として徹底的な低コスト化の達成を目標としている。計測した変位情報を携帯電話システムを使って定期的に送信すれば、ホスト側で長期に蓄積して維持管理に活用することができ、また、携帯電話システムを通じてその時点の変位を採取できるようにすれば、地震動による桁の移動量を知れるなど、防災に活用することもできる。

連携可能内容

簡易モニタリングシステムの「遠隔通信技術」との連携による利便性の向上
各種「インフラ補修用新材料」についての性能確認や設計法の開発
形状合理化による「各種鋼構造物」の疲労性能の向上(風力発電の継手構造など)
「損傷した鋼構造物」の補修や補強の手法の提案
「損傷した鋼構造物」の継続監視による安全確保手法の提案
※下線:当方の提供、「カッコ中」:連携先提供



教授
Mahapatra Kedarnath

マハパトラ ケダーナツシュ

学歴	インド・バーラハンプル国立大学 科学学部 卒業(1982) インド・バーラハンプル国立大学 海洋学部 大学院海洋学研究科 修士課程修了(1984) インド・バーラハンプル国立大学 海洋学部 大学院海洋学研究科 博士課程前期修了(1989) 東海大学 海洋学部 海洋工学科 博士課程修了(1998)
学位	博士(工学)(東海大学)
略歴	インド・オリッサ州応用リモートセンシング研究所 入社(1987～1996) 科学技術国際交流センター 水産庁遠洋水産研究所 特別研究員(1996) 東海大学 海洋学部 客員研究員／非常勤講師(1997～2023) 株式会社アース・ウェザー 研究員(2000～2023) 静岡理科大学 理工学部 教授(2023～)
学会	日本海洋学会／日本水産海洋学会／米国地球物理学連合(American Geophysical Union: AGU)／米国海洋学会(The Oceanography Society: TOS)／日本リモートセンシング学会／インドリモートセンシング学会/
専門	環境工学／気候変動／人工衛星リモートセンシング
研究	人工衛星データを用いた環境モニタリング／気候変動による都市環境と生態系への影響評価
URL	https://researchmap.jp/mahapatra



研究概要

人工衛星リモートセンシングデータを用いた気候変動による都市環境と生態系への影響の監視および評価に関する研究

近年の災害の激甚化が示すように、私たちを取り巻く環境や都市インフラは気候変動の影響を受けやすく、脆弱になっています。将来に向けて必要な対策を講じるべく、持続可能な開発目標(SDGs)の達成に向けて、カーボンニュートラル・エコノミーを実現するためには、1)当該地域の気候変動現象メカニズムを科学的に解明すること、2)地域環境にどのような影響を与えるかを把握すること、3)この環境変化が都市環境に与える短期的・長期的な影響を評価すること、が不可欠です。このため、当研究室では下記の研究を実施しています。

- 1.人工衛星によるリモートセンシングデータや関連する地上の気象観測データを統合する。
 - 2.地表面や水域(河川、湖沼、海洋)の長期的・短期的な生態系への影響や都市環境の変化に関する科学的解析および評価を実施する。
 - 3.この結果に基づいて、予測モデルを開発し、気候変動に関連する適切な対策を講じる。
- 上記の分析をもとに各分野のステークホルダーと連携して研究しています。

連携可能内容

国が低炭素経済をめざし、袋井市もカーボンニュートラルを目標に、その実現のために地元企業への支援を進めています。当研究室では、インフラ整備に携わる地元建設会社や環境の影響をうけやすい農業などのステークホルダーと協力し、1)環境偵察調査、2)環境影響評価、3)気候脆弱性評価および調査を実施し、カーボンニュートラルに向けた戦略プロジェクトを提案します。

准教授

松本 美紀

MATSUMOTO Miki

学歴 筑波大学 第一学群 自然科学類 地球科学専攻 卒業(1999)
愛媛大学大学院 理工学研究科 博士課程 修了(2008)

学位 博士(工学)(愛媛大学)

略歴 静岡理工科大学 理工学部 准教授(2022～)
神奈川大学人間科学研究所客員研究員(2024～)

学会 土木学会／日本自然災害学会／環境共生学会／環境情報科学

専門 建設マネジメント／土木計画学／気候変動対策

研究 建設技術評価／社会調査／防災・環境政策

URL https://researchmap.jp/m_miki



研究概要

防災・気候変動対策に資する土木計画・地域づくりに関する研究

少子高齢化問題や防災・減災、気候変動対策などの国土や社会の動向を踏まえ、社会資本整備事業として地域課題に応じた「まちづくり」が重要とされています。人口減少による都市構造の変化をデータから予測したり、災害の経験や事例検証を踏まえた防災対策や復興計画をたてたり、既存の事例やデータに加え、地域特性を踏まえた将来予測の条件設定や社会調査データを分析することで、地域にとって最適な「まちづくり」手法を検討します。



連携可能内容

- 産業部門/家庭部門における温室効果ガス排出量削減効果の見える化(KPI作成等)
- 政策支援(計画立案支援、公共事業評価等)
- 市場調査、社会調査
- 防災教育/BCP作成(教育機関/事業者等)
- 合意形成、メディエーター、ファシリテーター



准教授
居波 智也

INAMI Tomoya

- 学歴 東海大学 海洋学部 海洋土木学科 卒業(2006)
東海大学大学院 海洋学研究科 海洋工学専攻修士課程 修了(2008)
- 学位 博士(工学)(東海大学)
- 略歴 株式会社ヒラテ技研 入社(2008)
東海大学 海洋学部 臨時職員(2011)
東海大学 理学部 物理学科 非常勤講師 兼 東海大学 海洋学部 臨時職員(2018)
静岡理科大学 理工学部 准教授(2023～)
- 学会 土木学会／日本エネルギー学会／日本沿岸域学会
- 専門 海岸工学／水理模型実験／再生可能エネルギー
- 研究 海岸工学／エネルギー(波力・木質バイオマス)

研究概要

海岸工学およびエネルギー(波力・木質バイオマス)

研究の題材は地球です。また、それらに対しては哲学感を持って取り組むことを意識しています。海岸工学では、主に静岡・清水・沼津の海岸における漂砂の研究を実施しています。具体的に、現地で問題となっている事柄を現地に於て踏査して問題の本質となる部分を抽出し水理模型実験などで解決を目指します。また、変化に時間を要する現象に関しては定期的にUAV測量を実施し、海岸線全体での砂の動きを把握することを行っています。エネルギーの分野では、波エネルギーを変換する仕組みのひとつとなる波力発電を研究しています。これまでに越波式の波力発電装置の開発に携わってきました。今後もこの方式をベースに効率的なエネルギーの変換方法を模索していきます。また木質系の研究では、すでに未利用資源の利用価値検討が行われたものも含め、これまで適応されていなかった加工技術などとのマッチングを勘案し、無駄の少ない利活用方法の検討を実施しています。特に自然災害リスクが高い日本では、土木的なアプローチにエネルギー的な概念が加わることで、これまでとは少し違う形での社会貢献が可能となると考えています。

連携可能内容

これまで実際に行った連携は造波水路を使った研究および製品開発があります。具体的には、消波ブロックを使った港湾構造物の断面形状の評価や、越流水によるケーソン背後の洗堀防止に関する研究開発、また、洋上風力発電設備を支えるジャケット周りの洗堀対策などを実施してきました。また、木質系バイオマス発電では装置自体の開発や全体の仕組み作りの際に企業と連携してきました。これらの経験から、同様のことにしてももちろんですが、これから派生する様々な事柄で連携が可能と考えています。



准教授
鈴木 一史

SUZUKI Kazufumi

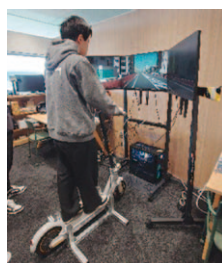
学歴	名古屋大学 工学部 社会環境工学科 卒業(2003) 名古屋大学大学院 工学研究科 地圏環境工学専攻 博士前期課程 修了(2005) 名古屋大学大学院 工学研究科 社会基盤工学専攻 博士後期課程 単位取得退学(2008)
学位	博士(工学)(名古屋大学)
略歴	名古屋大学大学院 工学研究科 社会基盤工学専攻 研究員(2008) 国土交通省 国土技術政策総合研究所 研究官(2010) 群馬工業高等専門学校 環境都市工学科 助教(2015) 群馬工業高等専門学校 環境都市工学科 講師(2017) 群馬工業高等専門学校 環境都市工学科 准教授(2019) 静岡理科大学 理工学部 准教授(2023～)
学会	土木学会／交通工学研究会／都市計画学会／東アジア交通学会
専門	交通工学／交通計画
研究	交通渋滞／交通安全／交通シミュレーション／交通行動分析／小型電動モビリティ／バーチャルリアリティ／高度道路交通システム
URL	https://researchmap.jp/kszk



研究概要

みちづくりから地域における安全・安心・快適な移動をデザインする

私たちの生活に必要な不可欠な人や物の移動の多くは道路が担っています。交通事故や交通渋滞のない安全・安心・快適な移動を実現するため、自動車だけでなく、歩行者や自転車、さらには新たな小型電動モビリティや自動運転車両にも対応した道路空間のあり方について、情報通信技術を活用した調査手法や交通シミュレーション、バーチャルリアリティ(VR)を用いながら研究を進めています。



連携可能内容

- 交通渋滞・交通事故に関する要因分析と対策立案、対策の安全性・円滑性に関する効果評価
- 交通シミュレーションによる各種交通施策の導入に伴う交通流への影響評価
- IoTを活用した効率的な交通行動データ収集ツールの開発
- 交通行動データの統計モデル分析、アンケート調査の企画・設計・データ分析